

令和3年度 第1回北葛北部在宅医療・介護連携推進会議 議事録

開催日時: 令和3年6月24日(木)午後6時30分～
 会場: ウェルス幸手 2階研修室
 出席者: 31人 事務局: 5人
 司会: 杉戸町高齢介護課 新堀主査

1. 開会

2. あいさつ 幸手市介護福祉課 小池課長

資料の確認

今年度新規に委員になられた方の紹介(敬称略)

杉戸町医師会 藤本和幸、幸手市歯科医師会 高柳篤史、幸手市介護支援専門員連絡協議会本木敏昭、地域ケア拠点「菜のはな」渡辺葉子、杉戸町健康支援課長 池澤恵一が新規の委員となる。

3. 令和3年度事業計画について 資料「令和3年度 北葛北部在宅医療・介護連携推進事業計画(案)」

幸手市介護福祉課
関森主査

資料の事業計画(案)について説明を行う。
 この事業は幸手市と杉戸町の共同で北葛北部医師会に委託し、連携して行っている。
 北葛北部在宅医療・介護連携推進事業については事業計画(案)の表面左の欄における、ア、イ、ウ、エ、オ、カ、裏面のキ、クの合計8つの事業項目を実施することで進めてきている。
 今年度の重点としての取り組みは、これまでに、推進会議でいただいたご意見やケアカフェ等の活用により現状と課題として挙がってきている次の4つの項目を考えている。

- 1 認知症対応
 地域で生活する人が認知症であっても同様に生活できるようになるための視点をもって、認知症初期集中支援チームの継続、認知症の方やケアをする方への支援体制を考えていくこと。
- 2 終末期対応
 最期まで自分らしく、その方が望む終末期を実現するため、人生の最終段階だけでなく(地域でどう生きていきたいかという)地域づくりを含め、在宅医療・介護連携支援を考えていくこと。
- 3 入退院支援
 切れ目のない在宅医療介護の提供体制の構築に向けて、医療介護関係者で共有できるものを作成していくこと。
- 4 在宅医療体制の構築に向けた連携
 在宅医療をされている先生方とのカンファレンスを通し、切れ目のない在宅医療の提供体制の構築に向けた連携を図っていくこと。
 ケアカフェでの研修会やグループワークなどの協議を通して実施していくことを計画している。

中野議長

何かご質問・ご意見はありますでしょうか。よろしいでしょうか。
 内容的にはこの後の事業報告と重複する部分があると思う。
 音声やテキスト等でコメントしていただいて結構です。

4. 令和2年度事業報告について(入退院支援エチケットの運用を含む) 資料「令和2年度事業報告について(入退院支援エチケットの運用を含む)」

令和3年度 第1回北葛北部在宅医療・介護連携推進会議 議事録

<p>中野議長</p>	<p>令和2年度事業報告についてア〜クのような事業内容を進めているところである。 当該事業におきましては、地域支援事業の中に包括的支援事業というものがあまして、その中に在宅医療・介護連携事業というものがああり、地域包括ケアシステムの構築を進めているところである。 平成24年度から国のモデル事業を受託している経緯もあり、結果的に東埼玉総合病院に地域ケア拠点を設置している。 代表的なところでは、別々に行われていた認知症初期支援チームを統合した。 地域共生社会などについても、足並みを揃えていこうと、過去2度話し合って決議している。 複雑な事例に対応するため、地域包括支援センター、社会福祉協議会、行政等と協力し、毎月地域包括ケア会議を行いながら、17件の支援の方向性を話し合った。 コロナ下においては、いかにオンライン化が行えるかを検討している。 感染管理に伴う自粛の影響を受け生活が抑制され、セーフティーネットが上手く機能しなくなった。地域ケアシステムをいかに再構築していくかが課題となっている。 ACP、看取り等、講師を招いて研修を行ってきた。 入退院支援エチケットに関しましては、医療機関だけでなく、ケアマネージャー・薬局など、医療と介護が緊密に協力して進めているところである。 この地域は必ずしもITリテラシーが高いとは言えなかったが、ITデバイスを有しているかどうかのアンケート調査を行った。連絡いただいた方の内約3分の1以上はMCSを活用していて、かつ4分の3以上がオンライン環境を有していることが分かった。 当初はマスク購入に関して、菜のはなを通して調整を行った。 施設入所よりも訪問介護などの在宅サービスのニーズが増加したことが今回明らかになった。 MCSを是非活用していただければと思う。 暮らしの保健室を通して、市民活動を支援してきたところであるが、活動を中止しなくてはいけない状況があった。その中でいかに再開するかが課題となった。 昨年度の相談件数としては760件、例年より減ったが、専門職からの相談が多かった。一方で、本人や家族からの相談を受けることが出来た。また、電話・メール・SNS等から半数近い相談となったことはこれまでの地域戦略の成果であった。今後は遠距離在宅介護支援を行っていきたいと考えている。また、入退院支援・デスクファレンス等、質の向上を進めていきたいと考えている。</p>
<p>薬剤師会 関谷氏</p>	<p>入退院支援として、病院から2件呼ばれた。西南医療センター・済生会栗橋病院であった。 他の地域からの招集はあった。当地域からはなかったことから、課題を考えていただけたらと思う。</p>
<p>中野議長</p>	<p>今年は薬剤師会が参加していただけていること自体に感謝している。</p>
<p>5. 認知症初期集中支援チーム検討委員会について 資料「認知症初期集中支援チーム員活動」</p>	
<p>北葛北部医師会 山根医師</p>	<p>北葛北部医師会の山根と申します。 認知症初期集中支援はチーム員活動について説明を行う。 コロナ下ということもあり、幸手東包括支援センターにおいて1件の活動報告があった。 東包括より説明お願いします。</p>

令和3年度 第1回北葛北部在宅医療・介護連携推進会議 議事録

<p>東地域包括支援センター 中村氏</p>	<p>幸手東包括、中村と申します。 78歳、女性、長女夫婦孫との4人暮らし。夫は特養入所中。 4年ほど前より軽い自損事故を起こしていた。これまで精神科の受診歴はなく、紫外線過敏症にて皮膚科受診のみ。そもそもパチンコ、たばこの依存が疑われる。 ADLは高く、物忘れはあっても生活は出来ている。 チーム員会議にかけ、チーム医に相談。①もの忘れ、精神症状に関しての受診を進めていく。まずはもの忘れ外来を受診し、相談し、相談後に精神科受診が必要とされれば専門医にかかることにする。②介護申請を行い、日中の居場所づくり、コミュニケーションの機会を作る。 結果、要介護1となりケアマネージャーにつながり、週2回デイサービス利用となる。サービスの拒否もなく、穏やかに過ごせており、家族も安心したようである。 今後はデイサービスの回数を増やしていく予定である。</p>
<p>北葛北部医師会 山根医師</p>	<p>ありがとうございました。連携を考えるには良い事例だったと思います。 認知症に関する相談は、令和2年度、幸手市が708件、杉戸町が約255件でした。 認知症対応への取り組みとして、幸手市では歯科医師からの助言をいただき認知症相談窓口の案内チラシを作成中であり、杉戸町では、「認知症あんしんガイドブック」の見直しを実施。 認知症の人に、どのように接したらいいのかについては、幸手市・杉戸町で支援を行っているところである。</p>
<p>中野議長</p>	<p>地域包括支援センターに対し医師会として応援していこうという体制は、とても良いことだと思いました。</p>
<p>幸手市介護支援専門員連絡協議会 本木氏</p>	<p>認知症の方はいらっしゃいます。神経内科や精神科等の受診を進めていくことがなかなか難しいため、何か良い方法があれば教えて欲しい。</p>
<p>中野議長</p>	<p>医療機関への敷居の高さを感じている。現場の方々が手詰まりになった際には、菜のはなの方に連絡いただければ、対応いたしますのでよろしくお願い致します。</p>
<p>杉戸町ケアマネジャー連絡会 内田氏</p>	<p>本当の困りごとを含めて解決する前に、受診を辞めてしまっている方が多い状況である。</p>
<p>中野議長</p>	<p>昨年度から、地域包括支援センターと歯科医師との認知症と呼ばれる方々への拾い上げの取り組みがあったと認識しているが。</p>
<p>東地域包括支援センター 中村氏</p>	<p>身なりや行動など、ちょっとでも気になることがあれば地域包括支援センターに連絡してもらえるようなチラシを作成中である。</p>
<p>中野議長</p>	<p>ありがとうございました。医師は上手く使ってもらえればと思う。</p>
<p>幸手市歯科医師会 高柳歯科医師</p>	<p>認知症が進むと口の管理ができにくくなります。入退院のケアとして、歯科の方にも是非お声掛けいただけたらと思います。</p>

情報共有

令和3年度 第1回北葛北部在宅医療・介護連携推進会議 議事録

中野議長	本日の議事はこれで終了となる。
杉戸町高齢介護課 新堀主査	連絡事項。 次回の会議は令和3年12月を予定している。